

令和7年度 三木市特定教育・保育施設評価 目標達成計画

(園所名) あけぼの認定こども園

| 観点 | ②異年齢集団での遊びや生活を通して社会性を培う教育・保育 |
|------------------|--|
| 項目 | 内 容 |
| 園の現状や取組、課題 | <ul style="list-style-type: none"> ・年上の子にだんご虫のいる場所を教えてもらいながら探し、容器に集めて一緒に観察をしている。 ・朝夕の合同保育では、1歳児が絵本を読んでいると5歳児が「読んであげようか」と声をかけたり、ブロックを組み立てて「どうぞ」と渡している姿がみられる。 ・年上の子の遊びに興味があり、同じ玩具で遊ぼうとするが、年上の子に思いをうまく受け入れてもらえず、トラブルになることがある。 ・幼児組(3～5歳児)は異年齢活動『あけぼのっこ』を毎月1回以上取り入れている。グループに分かれて活動をするなかで、4、5歳児が3歳児の手伝いをしたい気持ちが強く、また3歳児は自分でやりたいという気持ちがあり、それぞれの思いの伝え合いが上手くいかないことがある。 |
| 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然物や自然事象に興味や関心をもち、異年齢児の関わりの中で命の大切さを感じたり、伝統行事に参加するなかで社会性や協調性を身につける。 ・異年齢児(0～5歳児)と関わり、頼ったり頼られたりしながら一緒に活動するなかで、互いの信頼関係を深める。 ・異年齢活動『あけぼのっこ』を通して、自分でやりたい気持ちや伝えたいことを受け止めてもらい、親しみをもちながら一緒に遊ぶ楽しさを感じる。 ・異年齢のグループで楽しい思いが共有できる経験を増やし、信頼関係を育みながら、協力して遊ぶ楽しさや充実感を味わう。 |
| 目標達成に向けた具体的な取組内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・命や自然の不思議さに気づくことが出来るよう、他クラスと戸外遊びを一緒に楽しみ、草花や虫に触れる機会をもつ。 ・お集りで一緒にダンスを踊ったり、異年齢で手をつないで散歩に出かけたりする。 ・七夕祭りやお餅つきなどの伝統行事を行う。 ・『あけぼのっこ』では主体的な活動のなかで子どもたちで意見を出し合い、年上や年下の子の思いに気づいたり、自分の思いを調整することが出来るようなゲームや活動を増やす。 ・お祭りごっこを通して、工夫したり試したり試行錯誤しながら活動を進め、発想を伝え合いながら協力して共通の目的に向かい、お神輿づくりやお店やさん作りを一緒に楽しむ。 |
| 成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・(未満児)戸外遊び中に異年齢児で関わる姿が増えた。年長児や年中児が優しく接してくれるなかで自分の思いを伝えようしたり、幼児の遊びを真似たりしながら更に意欲的に遊びに向かう姿が見られるようになった。 ・(幼児)秋祭りごっこの活動を通して、年長児が年少児の自分でやりたい思いを汲み取ったり、困っているところを理解し手伝ってあげるなど、関わりの中で頼られる経験が増え自信に繋がっていった。また、年少児は年長児に受け止めてもらった経験から、特に同じグループの子と信頼関係が深まり、安心して自分の意見を伝えようとする姿が見られるようになった。年中児は年長児の姿を見て、年少児や未満児に優しく接する姿が増え進級に対する自信も高まっている。 |
| 評価 | <p>「敬老会」や「トライやるウィーク」「アフタースクール」など地域や学校との連携が大切にされており、「七夕祭り」や「お餅つき」など充実した伝統行事が実施されている。それらの活動の中で、子どもたち自身が自分も地域社会の一員であるという自覚が育まれるよう配慮されている。また「あけぼのっこ」などの「異年齢の活動」では年長児、年中児、年少児の交流を通して、年長児の年少児への「思いやりの気持ち」や子どもたちの「主体性」や「自主性」、さらにはお互いの信頼を高めていけるよう配慮した実践がなされている。また、子どもたちそれぞれの発達を意識し、温かく丁寧に関わっていきこうという保育の姿勢が、職員全体に共有されている。</p> |